

学校関係者評価会議議事録

平成 28 年 9 月 8 日 (木)

16 : 00 ~ 17 : 00

1. 開会

第 1 回学校関係者評価会議を開催させていただきます。

この会議は別名「明日の厚木看護専門学校考える会」というタイトルをつけさせていただきます。

この会議は皆様のざっくばらんなご意見を頂く会議と位置づけて考えております。

はじめに学校長より皆様にご挨拶させていただきます。

2. 学校長あいさつ

お足元悪い中、ご参加いただきまことにありがとうございます。

当校は専修学校に位置づけられております。

専修学校も教育の質を上げるために自己点検・自己評価を開始しております。

自己点検・自己評価につきましては平成 19 年度より取り組んでいる状況です。

詳細につきましては後ほど学内 A 委員より報告させていただきます。

今回の学校関係者評価は当校の卒業生、保護者の方、地域の方、講師の方、実習施設の方、講師の方での構成メンバーになっております。

本来は、在校生に入ってもらった方がいいと考えておりますが、まだその準備が十分に整っておりませんので今後の課題にさせていただきます。

学校関係者評価の命名を「明日の厚木看護学校考える会」にしたのは、看護の質が問われている中、看護学校も神奈川県下 45 課程ある中で、やはり学校が生き残るためには教育の質の向上を目指さなければいけないのではないかと、前に進むための懇談会、そういう位置づけでいたしました。

今回は「自己点検自己評価の報告」と「当校の卒業時に期待する能力」を議題にさせてもらっております。「当校の卒業時に期待する能力」は学内 B 委員より説明をいたしますので、皆様のご意見をいただきたいと思っております。

最後に職業実践専門課程がございます。

この職業実践専門課程というものは専修学校の専門課程で職業に必要な実践的かつ専門的能力を育成することを目的として専攻分野での実務に関する知識技術技能の育成を組織的に行うもので、文部科学省が推奨するものでございます。こちらにつきましては専修学校の水準を上げるということで当校も申請したいと考えております。こちらにつきましては申請が受理されましたら皆様にご報告をしていきたいと考えております。職員一同この県央地区の看護専門学校として責任を持って取り組んでまいりますので皆様のお力を借りてより良い教育をしていきたいと考えております。

今日はどうぞよろしくお願ひいたします

～出席委員の紹介～

3. 報告

<学内 A 委員>

自己点検・自己評価 平成27年度の結果と取り組みについては、事前配布しておりました資料に基づき述べさせていただきます。

当校の自己点検・自己評価活動の取り組みは、専修学校設置基準の改正が平成14年にありましたのでそれに伴い専修学校の教育活動について自己点検・自己評価を行っております。

厚生労働省の指針のもとに平成17年より自己点検・自己評価を実施し報告書を作成しております。平成25年に文部科学省の方から学校評価のガイドラインが策定されました。そのため、平成26年、平成27年は文部科学省のガイドラインに沿って自己点検・自己評価を実施しました。

自己点検・自己評価の目的は、教育活動を自ら点検し評価し改善していくことで教育活動の教育水準の維持・向上、創意工夫のある教育の追求を図るために実施するとなっております。

平成27年度は、文部科学省の学校評価ガイドラインに則り作成した大項目を全職員37名で11月21日に実施いたしました。

今年度、国際交流の項目は除外しております。除外の理由は、外国からおいでになった方が多い近隣の中学校を訪問し看護学校に入学する要望はあるのかを調査しました。その結果、進学よりも就職する生徒さんが多いという情報をいただきました。今回は、要望があまりないということで除外いたしました。ただ社会的な流れとしまして留学生を30万人受け入れるという政策がございますので今後はこの動向を見ながら点検していくと考えております。

評価は4段階になっています。不適切が1、やや不適切が2、ほぼ適切3、適切4です。結果は、全項目で、ほぼ3.5以上でした。

平成27年度は平成25年度に比べて「教育活動」「学習成果」「国際交流」この3点の項目がやや低く課題として取り組んでおります。

学校関係者評価の実施についてですが、平成27年度12月21日に神奈川県総合リハビリテーション事業団の事務局長と両看護局長から学校評価をいただきました。

また、学習成果については卒業後のキャリア形成についての把握ができてなかったため、平成28年度から卒業生の「新卒者のつどい」の場でアンケートを行いました。卒業生からも学校について評価をもらうことを取り組み始めました

学校関係者評価につきましては平成27年度実施いたしましたのでホームページで公表しております。

自己点検・自己評価の客観性透明性を高めるための学校関係者評価に在校生の参加を検討していくなど構成員の拡大に取り組んでまいりたいと思います。

今後は18歳人口の減少の中、看護師の養成に取り組んでいかなければなりません。大学化が進む中、学生確保が困難になってきています。そのためにも、専門学校としてどのような特色を出していくか課題です。

次に情報管理についてです。

情報管理については SNS または USB の取り扱いについては十分注意喚起・指導をしております。既存の取扱マニュアルに加え、今年度より情報管理プロジェクトを立ち上げ検討しております。今後は情報管理マニュアルを整備していく予定です。

次に退学率についてです。

退学理由については経済的な理由や学習困難など様々です。そのため、学生の顔が見えるように HR や教員と学生とのコミュニケーション取るようにしています。そして学習困難者が出ないように退

学率が上がらないように取り組んでおるところです。

財務ですが長期的特に看護第二学科の学生数の減少が想定されております。平成 30 年度には県の准看護師課程すべてが閉校して、自衛隊の准看護師課程が一枚だけとなります。准看護師の進学の一歩の調査結果を踏まえて、対策を立てる必要があると考えております。定員われによる影響を考えると、今後安定的に運営するために授業料などを見直し、自らの財源を確保していく必要があると考えます。

<実習施設代表委員>

「6 教育環境について」実習施設のインターンシップの点数が少し低いのですが、私たち実習施設側としては何か考えていった方がいいこととかございますか。

<学内 A 委員>

実習施設インターンシップについては自己点検自己評価では特に意見があがってきているということはございませんでした。この項目が低いのは評価項目の海外研修という文言にございまして海外研修については教育環境として整っているわけではございませんのでこの辺が少し他と比べて低くなっているのではないかと考えております。実習施設につきましては何か相談したいことがありましたらタイムリーに相談させていただいており、すぐ対応していただいているとらえております。

<有識者代表委員>

看護大学化が進む中で専門学校としてどのような特色を出していたというところについてですが、大学でとる看護師免許と専門学校 3 年間でとる看護師免許に違いはないのですよね。就職の時に多少の給与の差は少し出てくるそのぐらいですよね。そうしますと大学で看護師免許を取るメリットデメリット専門学校で看護師免許取るメリットデメリットどんなことがあるのでしょうか

<議長>

大学卒業して大学院に進学した場合に 5 年間の実務経験を積んで専門看護師、専門学校を 5 年間の実務経験を積んで認定看護師という資格の違いがあります。大学は理論的に物事を捉えていく学習研究が主になっていく、専門学校は実践という特色が濃いように思います。キャリアの積み方の違い、物の考え方、取り組み方などの方法に違いがあると考えます。専門学校は 3 年間で約 3,000 時間を履修します。大学は学修機関が 4 年間であり、専門学校は学修にキツキツで取り組む、自分の行動の意味とか見つめる時間が 4 年制に比べると少ない現状があると思います。この県央地区には今までは当校が一枚だけであったが 2 つ大学ができました。当校の特色を出して行かないと学生確保や質の良い看護が提供できないと思います。当校の使命としては学生にも伝えていますが県央地区の看護を担うそういう使命を学生に伝えていきます。県央地区の実習施設などへ約 8 割の学生が就職をしているそういう意味では貢献できていると考えております。

<保護者代表委員>

全国で看護だけの大学ってあるんですか。

<議長>

看護大学というものがあります。

<保護者代表委員>

うちの娘がこちらを受験させて頂く前にこの近辺の大学〇〇大学や〇〇大学など見学しに行ったりしました。最終的に本人判断でしたが学費も高いですが自分でこれだけの学費を親に払ってもら

ってそれだけのメリットがあるのかって考えた時に、高い学費が看護学部だけに使われているというイメージよりも他の学部や大学全体を支えなきゃいけないのだから看護だけにかかるお金じゃないのではないかと。厚木看護専門学校さんなんかはすべて看護に使われるそれが1番のメリットじゃないかと本人は言っています。少子化で大学が入りやすくなってきているので、大学じゃなくていいのか。というのもありましたが妹が2人いるので親のいろんなことを心配してくれたりしてくれました。

<議長>

学費ということもありますが専門性も考え専門学校を選んでくれる、というご意見として頂戴いたしました

<事務局代表委員>

すべて把握しているわけではないが大学と専門学校と比べたら年数とトータルでかかる学費は大学の方がかかります。ただ一方で他の看護専門学校で高い授業料がかかる学校もあります。場合によっては大学よりも高い授業料がかかるところもあります。それらを見ればこちらの厚木看護専門学校は神奈川県から厚木看護専門学校の運営にあたっては補助金が出ています。これはどういうことかといいますと結果的に授業料を安く設定できるということで、今、看護大学が増える中で看護師養成数も増えていますがやはり社会的には看護師の数が常に不足している状況でございまして、自治体からも補助を得ておりますが学生にとってもメリットがあることだと思えます。

4. 議題

厚木看護専門学校「卒業時に期待される能力」の育成・支援について

<学内B委員>

お手元の学校案内P1をご覧ください。当校の理念は、「人間らしく共に生きる」です。P2に教育目的、教育目標があり、その下に、卒業時に期待する能力6つがあります。教員がこれに向かって教育いたしますのはもちろんのこと、保護者説明会や入学前にもオープンキャンパスなどで説明し、教育課程にも掲載し、共通に理解している内容でございまして、これらに関しご説明いたします。

「1. 看護の専門的知識技術を身につける」については、看護師の法的に規定されている仕事としまして日常生活を支える日常生活援助と診療の補助業務がございまして、これらを中心に、学習した知識・技術が卒業後に効果的に活用できることを目指しております。専門的な知識、専門的な技術をしっかり学んでいくというところでは、学んだだけではダメで臨床もしくは臨地に出たときにその学びをしっかり活用できるレベルというところを目指しております。そういった中では演習ですとか自己学習を細やかに教員が指導しております。まさに実践力というところを強化しているところなんです。

「2. 人間の生命個人の尊厳及び権利を尊重できる」ですが、もちろん看護は人の命、それから個人情報非常に多く取り扱い、意識がなかったり自分の意思を自分で発言できなかったりする方もいらっしゃると思いますので、倫理的な側面というところは強化しております。授業もそうですが、普段の日常生活やHRの運営からも倫理というものをおさえております。最終的には人を大切にすること、ことに集約されますが、法的な根拠を含め社会通念、そして自らの倫理観を3年間かけて理解し構築していくことを重要視しております。

「3. 看護師の役割を認識し責任ある行動ができる」については、看護師の役割と一言で申しましたも法律が規定している看護師の役割、社会一般が期待する私たちの姿・役割、そして多職種、例えば医師であったり介護さんであったり、そういった方々が看護師に期待する役割等、視点が大きくなると思われま。その役割を自分で捉えられる力を大事にしています。私たちがその役割を取るのだということももちろんですが、他者から期待されるものは何なのか、実習を含めて学生に投げかけております。責任ある行動に関しましては、看護師免許取得した際には1対1で、もしくは密室でケアを行うということが多い仕事でございますので、正確に確実に、そして誠実に実践行動できる、ここを強化して指導しております。

「4. 学習を継続する必要性を認識し努力ができる」については、学校にいる間はかなりの学習課題と3年間の学習時間数の多さでは、学生が疲弊するぐらいに課題に取り組んでおります。ただこれが、規制されない状況のなかで、自ら欲して情報収集し学習する力をつけてもらいたいというのが私たちの願いでございます。もちろん社会情勢はめまぐるしく変化いたしますし、医療も本当に早く進歩していきます。看護師に求められる役割もどんどん変化して行く中で、その情報を自ら欲し学習していく力を是非つけていただきたい。その中では多くの課題を出しておりますが、課題を達成するというのも大切ですが、学習する習慣というものをこの3年間でどれだけ身につけていけるかということも課題として向き合っているところでございます。

「5. 一般教養身につけ高める努力ができる」については、専門領域の学習が主になりますが、広く共通して持つ教養というものが、学生一人一人の行動の根源となると考えております。一大人として、一社会人として、信頼を得る素地というところでは、一般教養というところに力を入れて学生の教育にあたっております。看護を提供する対象者が生活者であるので、その様々な立場にある様々な社会的背景を持つ対象者の価値観に近づいていく際に、一般教養を持っている、持っていないでは、その近づき方にはかなりの差が出ると思われま。ので、一般教養を身につけ高めるということを卒業時に期待する学生の能力というところにあげております。

「6. 人間関係を発展させる基礎的能力を身につける」については、人間関係を基盤とした職業でございますので患者家族、そして看護チーム、多職種、様々な立場の違う方々と共同していくための土台であると考えております。これは与えられるのではなく、能動的に自ら人間関係を発展させていくという力を大事にし、意志と態度スキル等、そういったものも獲得するという事を目指しております。特に二年次になりますとグループワーク等が多くなってまいりますが、学生は時々人との意見をすり合わせる時にかなりストレスを感じるという意見も聞かれます。やはりそこを乗り越えて様々な価値観を一つ一つ、合意形成をしていく、そういった事にも力を入れております。この卒業時に期待する能力は実習が終わるたびに学生に中間評価として自己評価をしてもらっております。アンケート調査として。全部の実習が終わった3年次にも卒業時に期待する能力がどの程度どのように身についたかを聞いております。それから卒業した学生が2か月後に学校に集まる機会がございますが、そこでも臨床に2か月出てみて卒業時に期待する学生の能力と当校が挙げている力が、どの程度自分に身に付いているのか評価をしておりますが、「当てはまる」「やや当てはまる」を、ほぼ9割以上の学生が自己評価をしているという状況でございます。様々な場面で学生に関わっている皆さんに卒業時に期待する能力というところで、私たちの日頃行っている教育ですとか、教育環境ですとか、そういった事のご意見を忌憚なくいただけたら大変ありがたいなというふう

思っております。以上です。

<卒業生代表委員>

卒業生としてですが、授業も実習指導もやっております。学内では、看護師になるという気概はまだ迫ってない感じがしますが、ところが実習が進むにつれて成長しているなっていうのが感じられます。また先生方からの教育が見えてきます。何かを考えなきゃいけない時、進路を考えなきゃいけない時など、学生の時どう教わったかを考えているところです。

<実習施設代表委員>

看護専門学校 학생さんは実習に来ると必ず大きな声でご挨拶してくれています。一般教養身につけるといことももちろんなのですが、人間関係発展させる能力を考えると、最初人と会った時に挨拶どういう表情ですとか、実習の中の体験をどう培っているかが大切になると思います。また、卒業してからの新卒の人たちの教育を担当しておりますが、やはり貴校の卒業生は始まる前の何分前には集まっていた。きちんとそういうルールが守れ、学習後の片付けや期限を守るなど人として信頼できる人材が、学校の中で教育されているという印象を持ちます。

<保護者代表委員>

うちの娘はちょうどゆとり世代です。受験勉強をせず高校に入って厚木看護に推薦で入って受験を経験していません。国家試験が迫ってかなりピリピリしてきています。分厚い辞書引きながらスマホ片手に勉強し、これがいい経験だと思っています。今までの中学高校と違ってきているとも思っています。人間関係も変わってきており、実習の準備でハガキにかなりリアルな鈴虫を書きました。娘はクラスの方からの意見をもらったことを言っていました。どんなことかと言いますと、絵を描いているとき、みんなから虫はどうなのかなー、お花とかの方がいいんでは、虫は気持ち悪いから俺嫌いな人がいるのではないかな、よした方が良くはないかな、という意見をもらったそうなのです。娘は「うーん」という顔をしてたのですが、でもいろんな意見があるんだな、感じたそうです。親としては、視野が広がったのではと感じた次第です。いろんな人の意見を感じ方学べる機会がありました。

<地域代表委員>

厚木市では敬老会を自治会単位でやるようになって学校の協力をもらい学生と高齢者のお話し合いできています。敬老会は今年3回目で、大々的にお年寄りをお迎えしていただいております、時間も忘れるくらい話ができて、大変感謝しております。参加される方々は楽しみにしており、なんら問題ないので当分続けようと思っております。文化祭に来たとき、手に取った彼らの教科書を見てびっくりしました。彼らは、勉強して訓練して、大変だなぁ遊ぶ暇ないだろうなぁと思ったことと、交流も重要な要素とも感じました。勉強をしている大事な20歳前後の青春は、自分を作っていく時期であり、自分を発見していくには大変だが両立を図るのも大事な時期です。レーダーチャートの学習成果・卒業生在校生の社会的な活躍の評価が低いですが、社会とのつながりということなのでしょう。何かお役に立てればいいのだけれど。お役に立てるチャンスがあれば、機会があれば是非お役に立っていきたい。

<有識者代表委員>

どこの学校でも同じような悩みを持っているかと思うのです。「人間関係を発展させる基礎的な能力身につける」ここの部分で苦手な学生がとても増えています。学生さんはとても真面目ですし、

一生懸命勉強しております。他と比較すると厚木看護専門学校はベースに人間を育てるという根本のベースの上で看護師を育てていると感じます。他の学校はかなり軍隊調のビシビシ能力を上げるのと違う全然違う育て方をしています。私もそこを敬服しています。しかも4年制の大学よりも結果が、国家試験の合格率が極めていいと。とてもすごいこと、そう日頃思っております。ここ20何年か見ていると人間関係を作る力が弱くなってきています。20数年ちょっとアンケートをとっているのですが、自己肯定感がずいぶん下がってきています。例えば自分のこと好きですかと質問すると4割近くの学生が自分のことをあんまり好きでないと答えています。この傾向は最近しばらく続いています。学生自身の気質が少し変わってきていて、自分に自信をつけていくことがうまく出来ていません。先ほどの敬老会の中でお年寄りが時間忘れて話している、これはとてもいいのではないのかなと実感持ちました。私の想像も多分にありますが、今の学生は同じクラスの学生と付き合い合う時も、ある程度の距離感をもってでしか付き合えない。例えばSNSとかケータイを通してメールを交換するくらいの距離感が1番ストレスなくて付き合いやすい。面と向かって互いに裸になって話すことに慣れていない。若い人たちが増えている中で敬老会ご老人と向き合って話し合う事は単にボランティアとか学習を超えた成果があるのではないかと思います。6つの教育目標を挙げられているのですが、看護の専門知識看護師の役割とかそういう部分ではしっかり成果が残されていて、それは素晴らしい教育されているのだなと感じるんですが、人間関係発展させる基礎的能力これをどうやって身につけさせていくのか、これはカリキュラム中でもなかなか達成できるのは難しい。ここのところを是非高くしていただいて、学生の人間的な力をもっと育てていける人はここで強くなることで全体に波及していくことになります。そういう広い意味でのカリキュラムを作っていただければありがたいなあと思っています。

<実習施設代表委員>

最近の学生さんは自己肯定感低くなってきています。新採用として就職してくれている皆さんまじめに学習に取り組んでくれています。ただ臨床にでてくるとこれもあれも同時に色んな事をやる多重課題が負担になってきていると感じます。凄く真面目に取り組んでいるからこそ10やるところをほとんど8割できていても2割できてないここに目がいく。できない自分に苦しくなって来しまう。この仕事はもうできないという方が何名かいました。臨床も出来てる所を褒めていく必要がありますが、自分のこと好きでない人のことどんなふうに持っていけば良いのかと迷うことがあります。

<議長>

自己効力感が低いところ出来ない自分というのが全然離れてないところにあると私たちも思っている。そうした中で私たち看護基礎教育の中でどのように学生巣立っていくのかというのが大きな課題になろうかというふうに思います。

<保護者代表委員>

私の娘はまだ入学して数ヶ月なのですが。本人が高校までは自分が行ける高校を選んだと言うのはあるのですが、後から先は大学含めて専門性、自分がやりたいことを取りたい資格、本人はたまたまともだちの看護体験に付き合っ、良い意味でハマってその場で看護師なりたい夢を持った。親としても僕はバブル世代なんですが、学生の頃はそれなりに勉強して、それなりの大学に行けばそれなりの就職をしてそれなりの生活ができる日本だった。今は、もうそうでないので大学もう本

当に早稲田や慶応を出たからといって看板だけではなかなか生きていけない社会になっています。日本は欧米に追いつけ追い越せという時代から本当にいろんな東南アジア諸国に追いつけ追い越されて、そういう意味では日本はこれからどういう経済的にも国家的にもどういう方向に進んでいくのかという中であって、今の子どもたちが一生懸命自分のやりたいことを見つけて進学して今一番本人が一番自ら勉強している時期かなと感じています。今までは本当に目の前の試験の点数を取ってというだけの勉強だったのが色々課題はありますけれども、社会的な番組を見るようになって僕と同じようなレベルの会話ができるようになって逆に僕にも、意見を言えるようになってきました。そして本当にこの半年間見て自分のやりたいことを見つけてまた実習の話、高校の時はクラブ話しか聞いたことないですけど、今回は実習に行こうだった病院にお世話になって実習病院こうだったと様々な話を聞いています。いのちに直接つながる仕事だから職業だから簡単にはいかないだろうと苦勞して、悩んでいるのだろうけどやはりそういうものを乗り越えて自分で自ら勉強している姿があります。この夏休み学校の友達が女の子だけでなく男の子が家に遊びに来て新たな経験を積んでいて、入学させてくれて本当に感謝しています。

5. その他

特になし

6. 閉会

今議題にありました「卒業時に期待するための能力」につきましては後者の立場、地域の方の立場、実習施設の立場、有識者の立場で十分にご意見をいただきました。課題もこの人間関係を発展させるという本当に明確な課題をいただきました。また私たちも職員一同でより良い看護者が巣立っていけるように取り組んで参りたいと思います。ありがとうございました。